

青木 藩 先生を偲ぶ

札幌医科大学医学部（旧）生理学第二講座
藤戸 裕, 松山 清治
札幌医科大学医学部（現）神経科学講座
長峯 隆

札幌医科大学名誉教授、青木 藩（アオキ マモル）先生は2021年1月22日に逝去されました。

札幌ご出身の青木先生は、1965年道立札幌医科大学卒業後、1966年に北海道大学大学院に入学して電気生理学の研究を始められました。創設期の旭川医科大学で生理学講座の立ち上げに参加されたのち、1981年に札幌医科大学生理学第二講座の宮崎教授の急逝を受け、後任として着任されました。以来25年にわたって、医学部学生への神経生理の講義、実習を中心に、2500名を超える医学部学生の育成をされるとともに、研究分野の確立に尽力されました。また、1983年に開設された札幌医科大学衛生短期大学部（現札幌医科大学保健医療学部）に対しては、生理学教育と教員の研究指導力向上に尽力されました。学内では、学務部長、動物実験施設長、附属図書館長を歴任し、大学の管理業務にも貢献されました。

ご研究は一貫して哺乳類神経の電気生理学で、ネコなどの哺乳動物の上位頸髄にある呼吸運動の中樞神経制御機構を世界で初めて明らかにされました（文献3）。とくに先生が初めて同定された頸髄呼吸ニューロンは、当時の総説や Handbook of Physiology に“Aoki neuron”としても紹介されました。また、脊髄損傷後の皮質脊髄路の可塑性や（文献4, 5）、海馬スライス標本を用いたGABA受容体サブタイプの部位差についての研究も発展させ（文献7, 8）、論文、総説を英文で87編、邦文で56編を上梓され、21名の学位論文取得の指導をされました。生理学第二講座（青木教授）の出身者には本学および他大学で教授職に就かれた



方も多数おられます（本学教授7名、他大学教授4名）。

折に触れて海外交流を心掛けられ、海外出張のうちに延べ24か所の大学、研究所を訪問され、札幌医大には Eccles 卿を初め、延べ42名の訪問者を受け入れられました。中でも、中国山東医科大学とは、2名の訪問研究生の学位号取得補助（山東医科大学、札幌医科大学）にとどまらず、三度にわたっての訪問を行い、両国間の生理研究の進展に尽力されました。この功績に対し、同大学の創立100周年記念式典に招聘され、客員教授の称号を授与されています。

日本生理学会では、評議員（1971～2017年）、各種委員会委員としてご活躍されるとともに1999年より2006年まで常任幹事を務められ、2004

年には、北海道当番幹事の筆頭として、第81回日本生理学会大会を札幌にて主催し、成功裏に修了されました。

1973年新設の旭川医科大学では1期生から生理学の授業を担当され、講義は論理的かつ系統だっており、板書も整理されたものであったため、学生が読み返してわかりやすいノートが出来上がり、学生の成績向上に寄与されました。学生の授業態度の指導などにも注力されたため、この点が強調されて札幌医科大学への異動時には、多くの試験不合格者を想像させる「撃墜王」との誤った風評が先行しましたが、実際は正反対で、ご本人は不本意に思っておられたようです。

運動能力に優れており、学生時代には卓球、柔道、教員になられてからは大学周囲のランニング、野球などで人目を引いていました。教室員揃っての昼食時間に研究と離れた会話を好まれ、ご趣味の昭和史の話題になると、時間を忘れて会話に熱中することもありました。大学ご退官後は、医療関係者への講義のほかに、ご専門の呼吸と関係した睡眠時無呼吸に関する外来診療もされておりました。



叙勲祝賀会

2019年には、医学教育・医学研究における長年の功績に対して、瑞宝中綬章を授与され、関係者が集まりお祝いを行いました。

先生のご冥福をお祈りします。

青木 藩 教授 略歴

- 1940年 札幌市にて出生
- 1965年 道立札幌医科大学医学部卒業 札幌医科大学附属病院でインターン終了
- 1966年 北海道大学大学院医学研究科入学 (生理学第二講座：藤森聞一教授主宰)
- 1970年 北海道大学大学院医学研究科修了 (神経生理学専攻) 医学博士号取得
- 1970年 北海道大学医学部助手 (生理学第二講座)
- 1971-73年 オーストラリア科学アカデミー招聘研究員として Monash 大学生理学教室 (McIntyre 教授) に留学
- 1973年 北海道大学講師 (医学部生理学第二講座)
- 1975年 旭川医科大学助教授 (医学部生理学第二講座：森茂美教授主宰)
- 1981年 札幌医科大学教授 (医学部生理学第二講座)
- 2004年 第81回日本生理学会大会当番幹事代表
- 2006年 札幌医科大学定年退職、同名誉教授
- 2006年 北海道文教大学人間科学部教授
- 2010年 同上退職
- 2019年 医学教育・医学研究における長年の顕著な功績に対して、令和元年春の叙勲にて瑞宝中綬章を授与
- 2021年1月 逝去、享年80歳
- 2021年師走

【文献】

1. Aoki M et al. (1975) J Physiol 251: 569-587.
2. Aoki M et al. (1976) J Neurophysiol 39: 331-339.
3. Aoki M et al. (1980) Brain Res 202: 51-63.
4. Aoki M et al. (1986) Neuroscience Res 3: 617-627.

5. Aoki M et al. (1988) In: Flohr H. (ed) Post-Lesion Neuronal Plasticity, Springer-Verlag, Berlin, pp.223-231.
6. Fujito Y et al. (1995) Exp Brain Res 105: 181-190.
7. Sato Y et al. (1997) Brain Res 773: 98-107.
8. Kobayashi S et al. (2004) Brain Res 1003: 176-82.